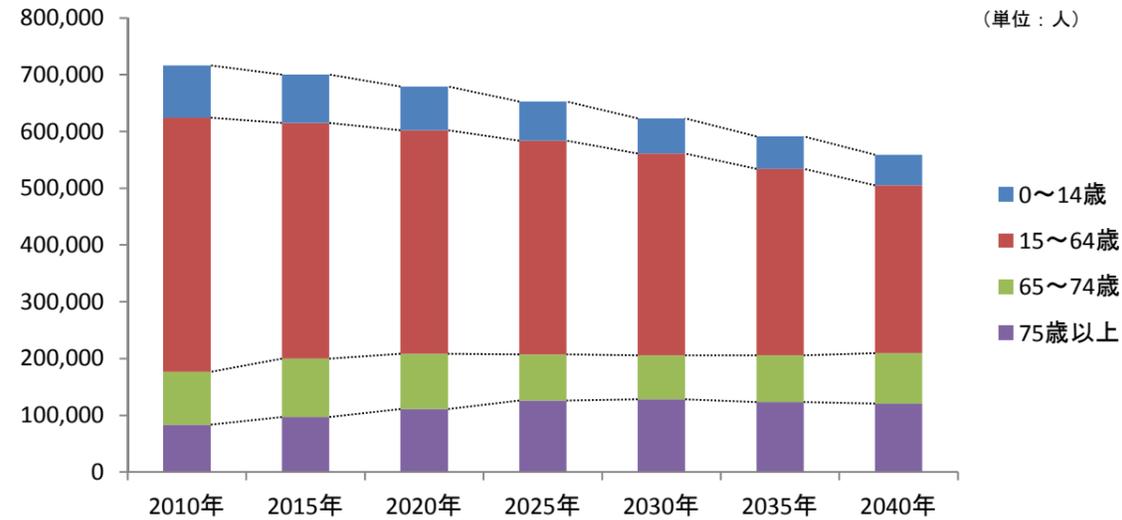


1 人口構造の変化の見通し

- ・2010年の人口は約71万人。2025年には8.9%減少し、約65万人になり、さらに2040年には22%減少し、約55万人になる。
- ・65歳以上の人口は、2025年に向けて17.4%増加し、その状況が2040年まで継続する。
- ・75歳以上の人口は、2025年に向けて50.8%増加し、その後2030年をピークに減少する。



	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年
0～14歳	91,743	84,982	76,785	68,556	61,512	57,093	53,853
15～64歳	447,624	415,195	393,417	376,339	355,525	328,188	295,608
65～74歳	93,178	102,843	97,428	81,443	77,412	82,351	88,858
75歳以上	83,652	97,188	111,248	126,176	128,476	123,689	120,612
総数	716,197	700,208	678,878	652,514	622,925	591,321	558,931

2 構想区域の現状と課題

○医療提供体制・疾病構造・患者の受療動向

- ・圏域内に病院は29病院あり、そのうち一般病床、療養病床を有する病院は24病院、一般病床を500床以上有する病院が4病院ある。病床数のうち約7割が一般病床であり、一般病床の多い医療圏である。
- ・圏域内には、3次救急を担う救命救急センターが3病院ある。救急医療体制は、3次救急病院を含む9病院が、2次救急を輪番制にて対応している。
- ・圏域内には、地域医療支援病院が6病院あり、地域の医療機関との連携を推進している。
- ・圏域内には高度な医療を提供できる医療機関が複数あり、ほぼ圏域内において医療完結できる。
- ・高度な医療の提供を受けるため、隣接する志太榛原及び富士医療圏からの患者の流入がある。
- ・在宅医療は、「イーソーネット」医療連携や「在宅連携安心カードシステム」が行われている。
- ・圏域内の医療施設従事医師数は、平成24年12月末日現在1,496人、人口10万人当たりでは210.1人であり、県全体の186.5人を上回っている。

○基幹病院までのアクセス

2次救急病院へのアクセスは、国道1号バイパスや一般道が整備されており、また、中山間地からの患者搬送は、救命救急センター等にヘリコプターによる空路のアクセスもある。

○平成26年度以降の状況変化と今後の見込

- ・山の上病院が病床の約4分の1を老人保健施設に転換(平成26年6月)
- ・静岡県立総合病院が高度救命救急センターに指定(平成27年3月)
- ・静岡市立清水病院が集中治療室病棟及び地域包括ケア病棟を新たに設置(平成27年4月)

- ・JA静岡厚生連清水厚生病院が地域包括ケア病棟を新たに設置(平成27年8月)
- ・静岡赤十字病院(平成28年12月完成予定)並びに静岡済生会総合病院(平成30年3月完成予定)が、建物の改築等施設整備

3 医療需要と2025年のあるべき医療提供体制

○2025年の必要病床数

- ・2025年の必要病床数は5,202床。2013年度実績から66床の転換等が必要になると推計される。
- ・急性期は79床、回復期は164床の充実が、高度急性期は1床、慢性期は308床の転換等が必要になると推計される。
- ・2025年の必要病床数のうち、高度急性期、急性期、回復期の小計は3,884床、慢性期は1,298床。



○2025年の在宅医療等の必要量

- ・2025年に向けて、在宅医療等の医療需要の増加は2,538人、うち訪問診療分について1,077人増加すると推計される。
- ・2025年の在宅医療等必要量のうち、訪問診療分の内訳は約48%。

